

催し物のご案内・利用案内

植物園の最新イベント情報は、公式ホームページやSNSでチェック！



フォロー&いいね!をお願いします

観賞温室第2室 企画展示

1 4(土) 1 26(日)	新春展
1 29(水) 3 1(日)	にいがたの花 アザレア展
3 4(水) 3 22(日)	にいがたの花 チューリップ展

観賞温室第3室1階 作品展示

1 4(土) 1 19(日)	第52回 新潟県花いっぱいコンクール作品展 ◆出展:あしたの新潟県を創る運動協会
1 21(火) 2 2(日)	ポタニカルセラアート展 ~100年経っても変わらないやさしい植物画の陶器~ ◆出展:リゅういち
2 4(火) 2 16(日)	友の会写真展・冬芽展示 ◆出展:新潟県立植物園友の会
2 18(火) 3 1(日)	はなはつぱみ展 vol.4 ◆出展:はなはつぱみ製作委員会
3 4(水) 4 5(日)	外山康雄 野の花の水彩画展 ◆出展:外山康雄野の花館

特別展示 ◆会場:観賞温室第3室1階(無料エリア)

2 1(土) 2 16(日)	季節の花展示 クリスマスローズ
イベント 2 9(日)	◆秋葉区産クリスマスローズ、アザレア販売 ◆倉重園長によるミニ講座(13:30~)

3|20(金・祝) 3|22(日) ウェルカムフェスタ

熱帯植物ドーム リニューアルオープン記念

- ・洋らん展 ・花の販売
- ・花のプレゼント(各日30名様)
- ・キッチンカー出店



観賞温室入館料

特別料金●3月22日(日)まで

改修工事及び植栽リニューアルに伴う観賞温室第1室(熱帯植物ドーム)閉鎖期間及びウェルカムフェスタ期間

通常料金●3月25日(水)以降

	特別料金	通常料金
大人	200円	600円
シルバー(65歳以上)	150円	480円
高校生・学生	100円	300円
小・中学生	無料	100円

※通常時、小中学生は土日祝は無料

- シルバー料金での入館は生年月日を証明できる物の提示が必要となります。
- 高校生・学生料金での入館は学生証の提示が必要となります。
- 身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳をお持ちの方は無料です。(等級により介助者無料)

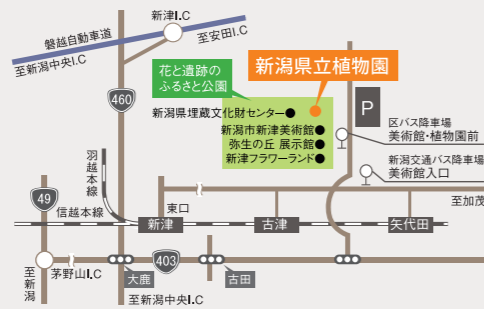
※特別料金の期間中は回数券・定期券は販売を休止します。

新潟県立植物園

〒956-0845 新潟市秋葉区金津186番地
TEL.0250-24-6465 FAX.0250-24-6410
HP <http://botanical.greenery-niigata.or.jp/>
指定管理者 国際総合学園・都市緑花センターグループ

情報発信しています

新潟県立植物園 検索



屋外園地無料／無料駐車場300台収容

花と緑の教室 *要予約/開催日の1か月前から電話受付

会場・集合場所●花と緑の情報センター2階(無料入館エリア)
*参加費には温室入館料が含まれています

1 8(水) 13:30-15:00	花散歩⑩「冬芽観察会」 ●講師:橋本永(当園職員) ●参加費:500円 ●定員:15名
1 12(日) 13:30-15:00	花散歩⑪「古典園芸植物を觀賞しよう」 ●講師:丸山真也(当園職員) ●参加費:500円 ●定員:15名
2 9(日) 10:30-12:00	花と緑の育て方・楽しみ方「アザレア」 ●講師:倉重祐二(当園園長) ●参加費:500円 ●定員:15名
2 12(水) 13:30-15:00	花散歩⑫「冬のバックヤードツアー」 ●講師:倉重祐二(当園園長) ●参加費:500円 ●定員:15名
3 1(日) 10:00-12:00	植物と食文化講座 「コーヒーはフルーツ。朝煎りの焙煎でその魅力に触れてみよう」 ●講師:星野元樹(にいがたコーヒープロジェクト) ●参加費:1,500円 ●定員:10名
3 8(日) 10:00-12:00	花と緑の育て方・楽しみ方「雪割草」 ●講師:岩淵公一(国際雪割草協会会長) ●参加費:500円 ●定員:15名
3 11(水) 13:30-15:00	花散歩⑬「チューリップあれこれ話」 ●講師:近藤智子(当園職員) ●参加費:500円 ●定員:15名

友の会の教室案内

会場●花と緑の情報センター2階(無料入館エリア)
申込●友の会ホームページよりお申し込みください

2 9(日) 13:30-15:00	地下茎の年齢をたどる(アマドコロ・ドイツズラン) ●講師:森田龍義(新潟大学名誉教授・友の会会長) ●参加費:500円(友の会会員300円) ●定員:30名
3 8(日) 13:30-15:00	フキノトウにはオスとメスがある ●講師:森田龍義(新潟大学名誉教授・友の会会長) ●参加費:500円(友の会会員300円) ●定員:30名

観賞温室開館日 温室開館時間9:30~16:30(入館締切16:00) 休館日

1 January	2 February	3 March
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
・ ・ ・ 1 2 3 4	・ ・ ・ ・ ・ 1	1 2 3 4 5 6 7
5 6 7 8 9 10 11	2 3 4 5 6 7 8	8 9 10 11 12 13 14
12 13 14 15 16 17 18	9 10 11 12 13 14 15	15 16 17 18 19 20 21
19 20 21 22 23 24 25	16 17 18 19 20 21 22	22 23 24 25 26 27 28
26 27 28 29 30 31 ・	23 24 25 26 27 28 29	29 30 31 ・ ・ ・ ・

NIIGATA Prefectural Botanical Garden
NEWSLETTER

新潟県立植物園 植物園だより

2020 winter Vol.76



シラカンバ <カバノキ科>

Betula platyphylla var. *japonica*

シラカンバは「シラカバ(白樺)」と呼ばれ高原のシンボルとして知られており、長野県の県木である。北海道から本州中部地方以北の標高1,000m位から亜高山帯にかけて最も多く分布している落葉高木で高さ20mになる。樹皮は若木では褐色だが5~6年もたつと白色になり非常に美しい。葉は三角状卵型で、縁に不規則な重鋸歯がある。春の新緑、秋の黄葉は美しい。花は雌雄異花で、5月頃に葉が出るのと同時に、がく片の無い花が咲く。雄花の花穂は5cmほど垂れ下がり、雌花の花穂は2cmほどで枝の上向きにつく。果穂は3~5cmの円筒形で垂れ下がり、種子には翼がついていて、風で遠くに飛ばされる。 解説:富樫信平(要約)

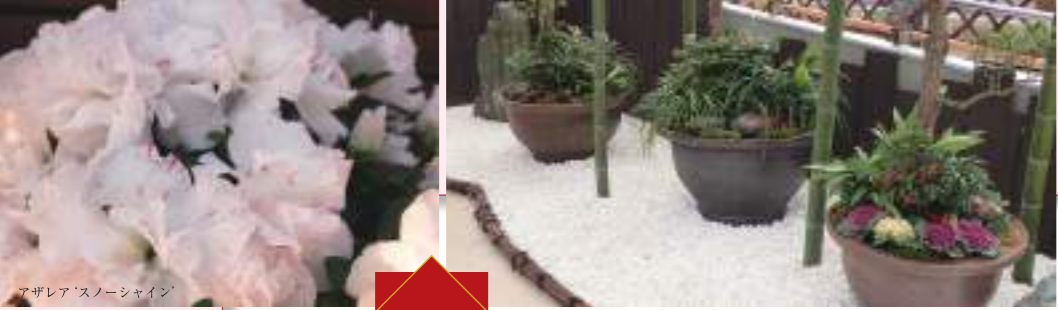
event

ウェルカムフェスタ

熱帯植物ドーム リニューアルオープン記念

3|20(金・祝) 3|22(日)

- ・洋らん展
- ・花の販売
- ・花のプレゼント(各日30名様)
- ・キッチンカー出店



アザレア「スノーシャイン」

企画展示

新春展 2020 1/4(土) 1/26(日)

150種以上の植物が詠まれた万葉集を出典とする「令和」2年の年明けにふさわしい新春展を開催します。冬でも緑色の葉を落とさない常緑樹や、赤い実をつけて冬の間も落とさずにいる植物は昔から縁起の良いものとしてお正月に飾られてきました。なじみ深い松竹梅のほか、南天(ナンテン)、万両(マンリョウ)、千両(センリョウ)、藪柑子(ヤブコウジ)などがあります。

展示会場ではアザレアが新春の華やいだ雰囲気を作り出し、松竹梅と新春にマッチした植物展示を行います。一足早い春を感じられる新春展をご覧ください。



アザレア「ニコレット・インダ」



アザレア「エルザ・カーガー」



アザレア「輝」

企画展示

にいがたの花

2020 1/29(水) 3/1(日) アザレア展
3/4(水) 3/22(日) チューリップ展

新潟県は、新潟市を中心に花卉園芸産業がさかんで、古くから園芸植物の栽培や品種改良が行われてきました。中でも全国一の生産量を誇るアザレア、チューリップについて、植物学的な解説から栽培や育種の歴史までをご紹介します。

アザレア展では、保有品種数日本一を誇る当園の300種以上のアザレアコレクションから、選りすぐりの100品種を一挙公開します。花が咲きそろった時の圧倒的なボリュームはアザレアならではの。暗い冬を吹き飛ばすような華やかさをお楽しみください。

チューリップ展では、今年度がチューリップ球根商業生産100周年であることにちなみ、生産が始まった大正時代の栽培の様子などを写真や資料によりご紹介します。また、会場を彩る色鮮やかなチューリップの花々で一足早い春を感じてください。



チューリップ「スプリングファンタジー」



チューリップ「カナスタ」



チューリップ「ワールドフェボリート」



ダイオウヤシ



ヒカゲヘゴの芽



温室に組立てられた足場

催事案内

観賞温室第1室リニューアル進捗状況 ウェルカムフェスタ 3/20(金・祝) 3/22(日)

観賞温室第1室では、擬岩の補修工事が行われています。擬岩の周囲には工事用の足場が高々と組み立てられ、この足場からはヒカゲヘゴを間近に見ることができ、ダイオウヤシを同じ背丈で見ることができます。残念ながら工事中のため一般の方は温室に入れません。普段撮影できない箇所からの写真を撮影しました。閉鎖中でも、灌水や防除などの温室内の作業は通常通り行っています。擬岩の補修工事が落ち着いてから、植栽後20年以上が経過して固く締まった土を取り換え、バックヤードで育てている熱帯性のシャクナゲやコーヒーノキなどの植栽を行う予定です。現在は、観賞温室第2室、第3室のみの開館ですが、3月20日にリニューアルオープンの予定です。

これに合わせ、3月20日(金・祝)～22日(日)「ウェルカムフェスタ」を開催します。この3日間、入館料は通常大人600円を熱帯温室ドーム閉鎖期間中と同じ200円で入館できます。また、各日先着30名に花のプレゼントも行います。皆様のお越しをお待ちしております。

観賞温室3室2階では、県内の洋らん愛好家が丹精込めて育てた、様々な種類の洋ランを見ることが出来る洋らん展(3/20～3/29まで)も開催します。色鮮やかな花姿と洋ラン独特の香りをお楽しみください。また洋らん展期間中、洋ラン販売も予定しています。

春の爽やかな季節の始まりを県立植物園で過ごしてみませんか。



パフィオペディルム



愛好家による洋らん展



植物園NEWS 1 地域の自然と共に生きるチカラを ～オキナグサを通して(続報)～

「地域の自然を知り、守り、そしてその魅力を伝えていく力」を育てていくことを目的の一つとして、新潟県内某所の小学生と共に、新潟県内で最大級のオキナグサの自生地の保護・保全活動を進めています(*自然保護・保全などの観点から、詳しい場所については伏せさせていただきます)。

今秋、児童たちが自生地から採集したタネから育てたオキナグサを、児童たちの思いのこもった

ラベルを添えて植栽しました。そして、今回の活動を通して児童たちが学び、感じたことを「環境保全ポスター」として作成し、地元の方へ進呈しました。

児童たちが「地域の自然を知り、守り、そしてその魅力を伝えていく力」を育てていくことを目的として始めたこの活動から、たくさんのことを学び、そしてそれを「伝える」ことまで出来たということは素晴らしい成果だったと感じています。(丸山真也)



児童が作ったポスター

右上:オキナグサ植栽の様子、右下:ポスター進呈の様子

植物園NEWS 2 ツバキを通じた国際交流

2018年5月、フランスの生態学博士で、水彩画家として活躍されているデュニ・クラブル(Denis Clavreul)さんが来園されました。クラブルさんは、ナント市自然史博物館より依頼を受けて、日本をはじめ中国、ベトナム等のツバキの自生地を巡り、写生をしています。

新潟では、ユキツバキやヤブツバキとユキツバキの雑種であるユキバツバキの自生地をご案内しました。これをきっかけに、クラブルさんと当園の親交がはじまり、日本各地の植物園やツバキの研究者、愛好団体をご紹介します。これまでに沖縄では沖縄美ら島財団や沖縄県椿協会のお骨折りでヒメサザンカやサザンカの自生地を訪れ、九州では東海大学名誉教授の田中孝幸先生にサザン

カの自生地を、また静岡では玉川大学元教授の山口聡先生にヤブツバキの自生地や茶摘みが行われている茶畑をご案内いただきました。2020年3月の来日時には、加茂市にある雪椿酒造を訪れ、酒造りの様子を描くことになっています。

新潟市とナント市は姉妹都市であり、提携10周年を迎えたことから、10月にはJAMギャラリー一蔵で展示会も開催されました。

植物園は国内外に幅広いネットワークを持っています。日本発祥の園芸植物として世界各地に広まったツバキを通じて、それに関心を寄せるフランスの博物館や研究者とのつながりができ、また日本の植物園、研究者や愛好団体等と絆が深まったことは喜ばしいことです。(倉重祐二)



JAMギャラリー一蔵(新潟市)で行われた展示会「美しいツバキ〜ナント・新潟〜」



左:ナント市自然史博物館で行われた展示会「A la recherche du camélia sauvage」(野生ツバキの探検)のパンフレット 右上:ユキツバキとヤブツバキの形態の比較作品、右下:ヤマツツジと昆虫



つくば植物園のショクダイオオコンニャク

バックヤード

ショクダイオオコンニャク

バックヤードでは、ショクダイオオコンニャクを育成中です。

この株は、当園が開園15周年を迎えた2013年に小石川植物園から寄贈されたものです。

ショクダイオオコンニャクは、インドネシア・スマトラ島の一部に分布し、国際自然保護連合(IUCN)のレッドリスト(絶滅の恐れのある野生生物のリスト)では絶滅危惧種に指定されている希少な植物です。

1年に葉が1枚展開し、地下部(球茎)に栄養を貯めます。球茎が充実すると花をつけます。開花時の地上部は、小さな花がたくさん集まった肉穂花序とその上部の棒状の付属体、花序を包む仏炎苞からなり、地上2~3mに達します。開花期間は短く、その間に効率的に受粉を行うため、腐ったようなにおいで虫を誘います。

現在、ビニールハウスでは管理が難しいくらいにまで生長しているものの、残念ながらまだ開花に至っていません。いつか貴重な開花の瞬間を皆さんにご覧いただきたいと思います。(林寛子)

園内
ウォッチング

植物園NEWS 3 ちょ〜生きもの発表会／生物多様性特別授業

植物園は、新潟市内の自然科学施設が連携する「にいがたダイバーシティネットワーク」に参加しています。この会で昨年に行っている「ちょ〜生きもの発表会」(生きものに関する研究の発表会)が12月7日・8日に開催されました。発表会では、動物、植物、キノコ、外来種など幅広い分野の専門家からの発表があり大いに盛り上がりしました。特別展示、体験コーナーでは、研究や活動紹介、標本等の展示や木工教室などがあり、当園からは食虫植物や多肉植物などを展示しました。

また、今回は同時開催として、「生物多様性特別授業」と

題した多様性についての講座が、玉川大学農学部教授の小野正人先生と、当園の倉重園長が話し手、新潟明訓高校の生徒さん2名が聞き手となり、モデルの山田彩乃さんの進行で行われました。生物多様性の現状や取り組み、人間とのかかわりについて、話し手のお二人がそれぞれの専門を例にとり解説されました。専門家と高校生との授業形式のお話はとてもわかりやすく、来場の皆さんも多様性を良く知る機会になったと思います。

今後このような連携を大切に、自然科学の理解を深めていただく機会を増やしていけたらと思います。(林寛子)



上:生物多様性特別授業、下:当園の出張展示